

沼津市（大平地区）水災害対策プラン（狩野川内水対策アクションプラン）の概要

■水災害対策プランとは

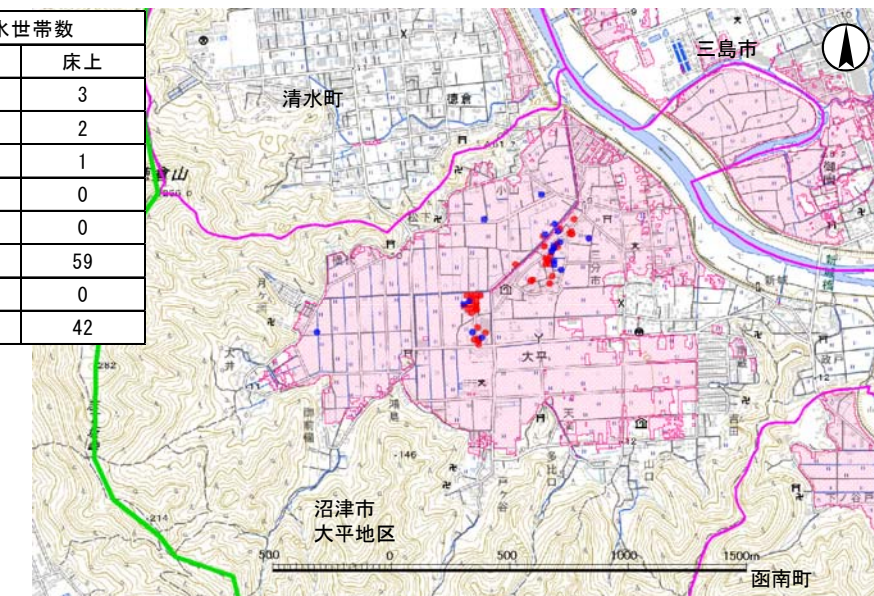
- 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発化する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- 沼津市（大平地区）では、これまでも大平地区豪雨災害対策アクションプラン(H24.8策定、H31.3改訂)により、浸水被害軽減に向けた対策を実施してきました。
- 水災害対策プランは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、河川及び流域での長期的な対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るための施策をまとめたものです。

■沼津市（大平地区）の地形の特徴

- 沼津市大平地区は、狩野川中流部左岸に位置し、三方を山地に囲まれ、東側は狩野川の高い堤防に囲まれた、いわゆる内水域と呼ばれる地形になっています。
- 沼津市の大平地区の雨水排水は、通常、大平江川流末の樋管から狩野川に排水されますが、大雨で狩野川の水位が上昇した場合、清水江川流域にある大平徳倉排水機場で排水する方式になっています。
- 狩野川は、昭和33年の狩野川台風以降の河川整備の進捗により、近年堤防の決壊には至っていませんが、大平地区は清水町側より地盤高が1m以上低いことから、狩野川の水位上昇により、比較的早期に低地の雨水の排水が困難となり、内水による浸水被害が度々発生する状況にあります。

■過去の浸水被害の状況

発生時	大雨要因	浸水世帯数	
		床下	床上
H10.8	豪雨	15	3
H10.9	豪雨及び台風5号	3	2
H14.10	台風21号及び豪雨	2	1
H15.8	豪雨	57	0
H16.10	台風22号及び豪雨	46	0
H19.9	台風9号	75	59
H22.7	豪雨	17	0
R1.10	台風19号	16	42



- 床上浸水
 - 床下浸水
 - 浸水域(推定)
- 令和元年東日本台風
(台風第19号)の浸水域

※R1洪水以外の浸水世帯数は、水害統計より大平地区の被災数量を集計。
※R1洪水の浸水世帯数は、静岡県公式HP「台風第19号による被害状況について【第23報】（12月2日現在）」より集計。

■令和元年東日本台風（台風第19号）浸水被害の要因

＜大雨が長時間継続＞

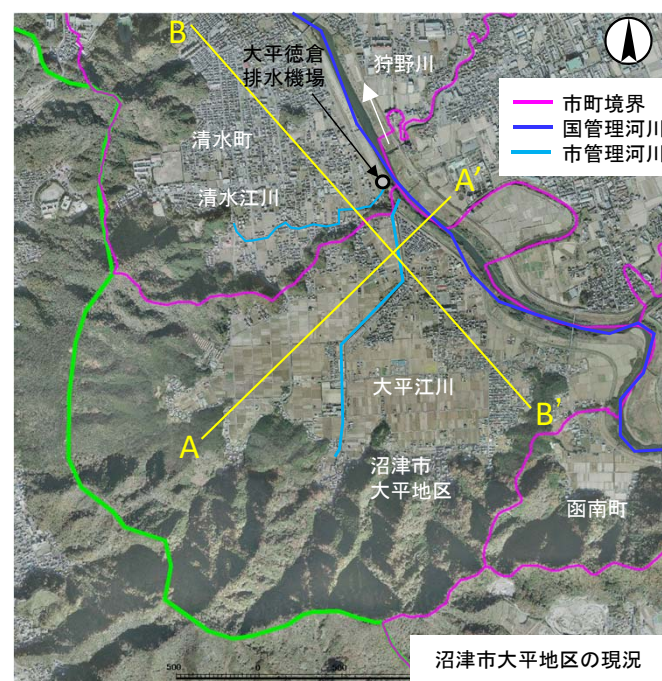
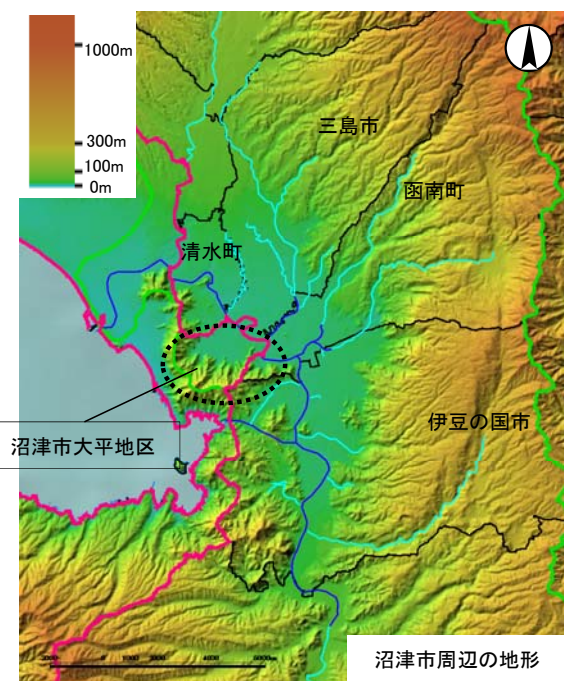
- 令和元年東日本台風は、狩野川台風とほぼ同様の進路をたどり、1時間雨量の最大値は52mmで、狩野川台風(120mm)より小さいものの、天城山系に位置する湯ヶ島観測所での総雨量は狩野川台風(739mm)を上回る778mmとなりました。このため、狩野川本川の計画高水位（治水計画上の基準となる水位）と同程度まで水位が上昇するなど、近年最大の高水位となり、また高い水位が長時間継続しました。
- また、内水域も24時間で370mm（三島地点）を観測する大雨であったことから、既存排水施設の排水能力や地域の湛水許容量を超え、近年で最大規模の浸水被害となっています。

＜流域の開発と地形的要因＞

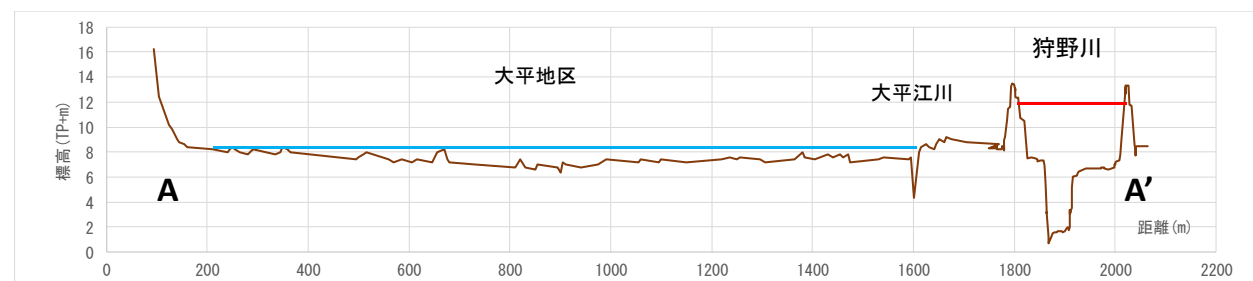
- 大平地区では昭和47年の市街化調整区域の都市計画決定前までに、急速に農地から宅地へ転換され、住宅地が急速に拡大しました。平成に入ると、大規模な開発等は制限されましたが、一部では宅地化が進みました。
- もともと浸水しやすい低地の住宅化により、従来田畑に貯留、浸透していた雨水が市街地に流出しやすくなったことで、家屋浸水のリスクが高くなっています。

＜河川の流下能力不足＞

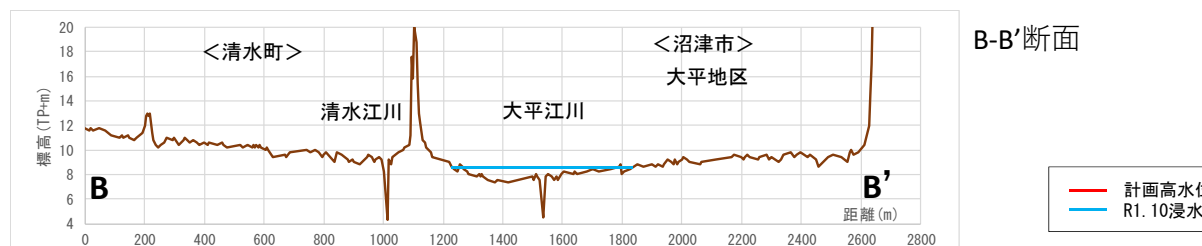
- 大平地区に降った雨は大平江川に流出しますが、河川の流下能力が低く、大平江川の水位が上昇しやすくなっています。



背景図は
国土地理院
色別標高図、
空中写真

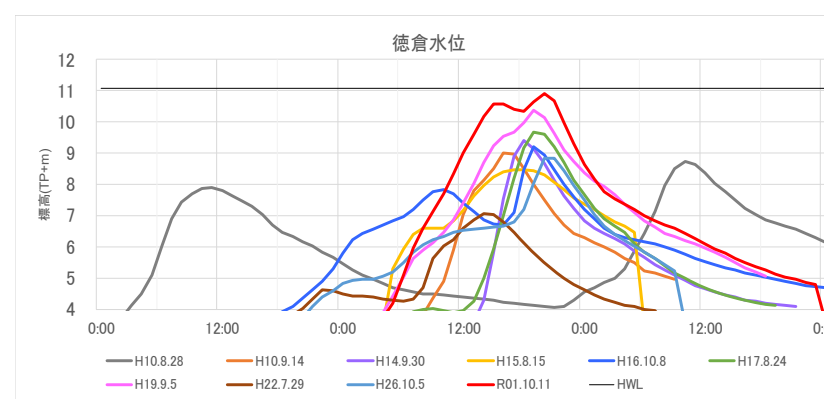


A-A'断面

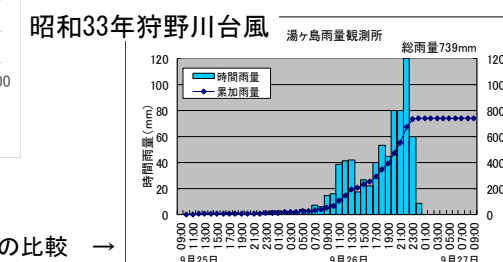
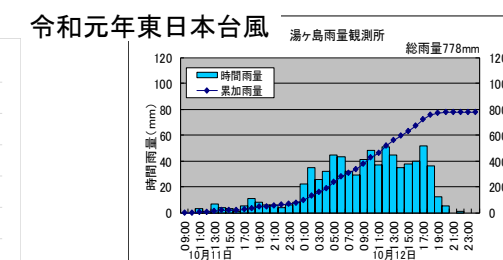


B-B'断面

— 計画高水位
— R1.10浸水位



↑ 狩野川下流部 徳倉地点における主な洪水の水位時間変化の重ね合わせ



令和元年東日本台風と昭和33年狩野川台風の湯ヶ島地点における降雨量の比較 →

■プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね解消することを目指す。※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。

■水災害対策プランの対策メニュー（沼津市及び国、県）

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期(5年)	中期(10年)	中長期(20年)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○	○	
		大平江川河道拡幅・護岸整備※	沼津市	ハード対策	○	○	○
		大平江川排水機場の新設※	沼津市	ハード対策	○		
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国 沼津市	ソフト対策	○	○	○
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 沼津市	ソフト対策	○	○	○
		大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○	
	雨水貯留浸透機能の向上	河川パトによる土砂堆積状況等の把握	国 沼津市	ソフト対策	○	○	○
		都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	沼津市	ソフト対策	○	○	○
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	国道414号バイパス建設に伴う雨水貯留施設整備※	県	ハード対策	○		
		雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進	沼津市	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	避難体制の強化	避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	沼津市	ソフト対策	○	○	○
		住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)	沼津市	ソフト対策	○	○	○
		児童・生徒による地域コミュニティを通じた防災活動	沼津市	ソフト対策	○		

- ・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
- ・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。

なお、※印は「大平地区豪雨災害対策アクションプラン(H24.8策定、H31.3改訂)」記載の対策を示す。



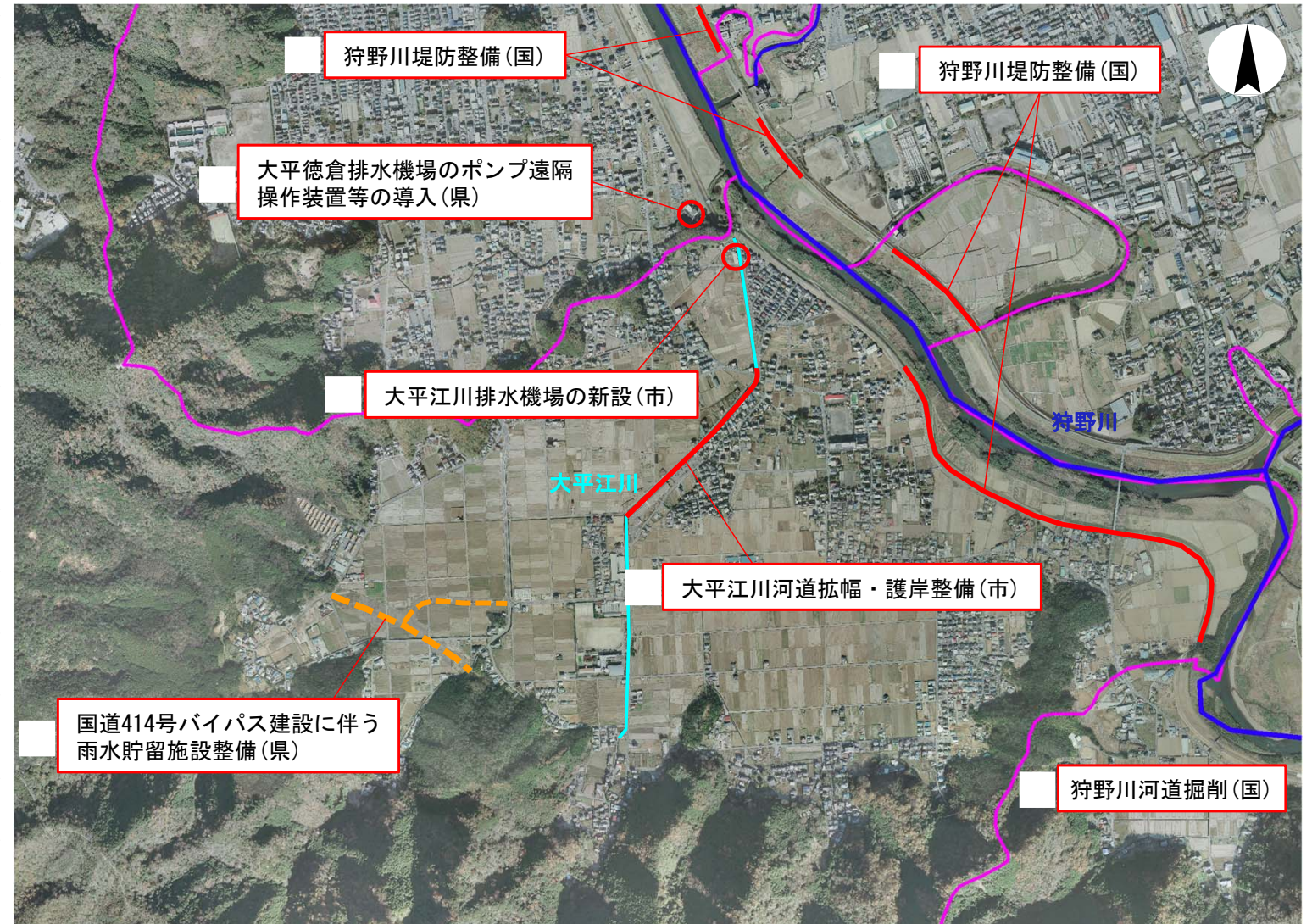
狩野川堤防整備(国)



大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入(県)



大平江川河道拡幅・護岸整備(市)



- ・ 雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進(市)

- ・ 避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業(市)
- ・ 住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)(市)
- ・ 児童・生徒による地域コミュニティを通じた防災活動(市)

- ・ 許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導(国・市)
- ・ 毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理(県・市)
- ・ 河川パトによる土砂堆積状況等の把握(国・市)
- ・ 都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導(市)